

4. 情報収集・情報発信

4-1. ネットワークの構築（情報収集）

(1) 情報収集の方法

沖縄県内への外来種の侵入状況及び重点対策種・重点予防種・産業管理外来種の動向について、沖縄県外来種情報ネットワークの構成員候補となる以下の研究機関、地域で活動する団体、行政機関等へヒアリングを行った。

(2) 情報収集の結果

今年度新たに県内への侵入が確認された外来種は、以下の昆虫1種と植物6種であった（表4-1.1）。昆虫については沖縄島で、植物については沖縄島で2種、久米島で1種、西表島で3種が報告されている。

表 4-1.1 新たに確認された外来種一覧

No. 分類群	種名	対策外来種リストの カテゴリー	侵入地	原産地	文献
1 昆虫類	ソテツシロカイガラムシ（仮称）（マルカイガラムシ科） <i>Aulacaspis yasumatsui</i>	-	沖縄島	東南アジア	文献1
2 植物	シグナルグラス（スリナムグラスを含む）（イネ科） <i>Urochloa brizantha</i>	-	西表島	アフリカ	文献2
3 植物	カモノハシガヤ近縁種（イネ科） <i>Bothriochloa radicans</i>	-	久米島	アフリカ	（注1）
4 植物	オオトゲミモザ（マメ科） <i>Mimosa diplotricha</i>	-	西表島	南米	文献2
5 植物	タイワンミズハコベ（アカネ科） <i>Dentella repens</i>	-	西表島	東南アジア～ 南西太平洋	文献2
6 植物	メリケントキンソウ（キク科） <i>Soliva sessilis</i>	-	沖縄島	南米	文献3
7 植物	ハヤシギク（キク科） <i>Gymnanthemum amygdalinum</i>	-	沖縄島	南米	文献3

注1：情報提供者の未発表データ

<引用文献>

文献1：沖縄タイムス記事『ソテツ害虫 国頭で確認 国内2例目 カイガラムシ拡大懸念』（令和5年3月14日付）

文献2：梶田結衣・米倉浩司・遠山弘法ほか. 2022. 沖縄県西表島における外来植物目録. 大阪市立自然史博物館研究報告 76: 125-141.

文献3：林将之・名嘉初美. 2022. 沖縄の身近な植物図鑑. ボーダーインク, 那覇.

(3) 重点対策種・重点予防種・産業管理外来種の情報

重点対策種8種と重点予防種1種、産業管理外来種1種の動向に関する情報を示す(表4-1.2)。哺乳類2種、鳥類2種、爬虫類1種、両生類1種、植物2種、昆虫類2種の計10種の情報が得られた。

表4-1.2 ヒアリングにより得られた重点対策種・産業管理外来種の動向

No.	種名	情報
重点対策種		
1	ノネコ <i>Felis silvestris catus</i>	(伊是名島) ノラネコの増加を懸念している。 (伊江島) 放し飼いによるノラネコの増加で苦情がある。ネコについては3年前よりTNRの実施や訪問指導・各団体への協力依頼・広報紙・防災無線などで飼養管理のルール・マナーを周知している。村としても各課より情報の提供、指導等の連携を図っている。 (粟国島) ノラネコが多いが、捕獲は行っておらず、個体数等についても把握は出来ていない。 (渡名喜島) (ノラネコの) 糞尿等の苦情があるが、現在及び過去の頭数のデータがないため増減は不明。 (宮古島) 大野山林でイタチわなの錯誤捕獲個体を不妊手術後放獣。
2	ニホンイノシシ・イノブタ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	(座間味村) 村でニホンイノシシの対策を行っている(昨年度捕獲実績6頭)。 (宮古島) 今年度、城辺で3年ぶりに捕獲(6頭)された。生息数10頭前後と推測されていたが、繁殖している可能性あり。次年度調査に向け予算要求中。 (竹富町) 前年より引き続きイノブタの駆除を内離島、外離島で実施しており、令和3年度の実績で35頭を駆除。
3	インドクジャク <i>Pavo cristatus</i>	(宮古島・伊良部島) 宮古島全域と伊良部島牧山地区に生息。猟友会による捕獲、森林組合による営巣卵採取、専門業者による営巣卵採取、胃内容物調査、ねぐら調査、生息状況調査を実施。 (石垣島) 生息範囲がより山中に広がっている。いわゆる於茂登岳にはまだいないが、於茂登から連なる北部には途中まで上がって来ている。また、前勢岳の沢沿いを奥まで入ると、森の中でクジャクの鳴き声が聞こえる。 (石垣島) 令和3年度は489羽を駆除。 (竹富町) 駆除を小浜島と黒島で実施。令和3年度は小浜島で生体101羽、卵133個を駆除。小浜島における推定個体数は令和4年度の調査で推定260羽。黒島では竹富町の事業で令和3年度で26羽を駆除。
4	コウライキジ <i>Phasianus colchicus karpowi</i>	(伊是名島) 対策として、銃器駆除(115羽)、卵買い取り(257個)、生体買い取りを実施。 (石垣島) 令和3年度は574羽を駆除。
5	グリーンアノール <i>Anolis carolinensis</i>	(座間味島) 駆除業務が今年度も実施されている。住宅地に侵入したという情報もあり、分布拡大が懸念されている。
6	オオヒキガエル <i>Rhinella marina</i>	(石垣島) 石垣島における駆除を本気で考えないと、脅威は消えない。
7	アメリカハマグルマ <i>Sphagneticola trilobata</i>	(沖縄島やんばる地域) チヌフク林道、宇嘉林道、伊部岳登山口で確認。 (粟国島) 道路の除草の際に注意している。
8	ツルヒヨドリ <i>Mikania micrantha</i>	(沖縄島やんばる地域) 駆除等対策を行っている。 (沖縄島やんばる地域) 東村の「慶佐次湾のヒルギ林」とその周辺で除去している。村建設環境課でも村内での対策を行っている。 (沖縄島名護市) 様々なフィールド(特に水域の周り)で増えている。 (石垣島) 令和元年コンサル会社調査員がパンナ公園スカイライン沿いの一部で確認。令和2年4月、川原橋下の宮良川沿いの一部分で確認。令和4年12月、宮良川と空港周辺で新たな分布箇所を確認。川沿い、新石垣空港周辺で分布域が拡大し繁茂している状況。令和2年度からパンナ岳と宮良川で防除を実施。パンナ岳はパンナスカイライン沿いで石垣市、公園管理事務所、パークボランティアで防除を実施。宮良川での駆除は環境省と八重山土木事務所で1度実施し、令和4年度から沖縄県自然保護課が実施。 (石垣島) 空港周辺とパンナ公園で令和2、3年に環境省と合同で駆除を実施(100~200kg程度)。 (石垣島) 駆除を頻繁にやらないため、繁茂する一方だ。そのうち1ヵ所は宮良川岸なので、下流域に広がっていないか気になる。
重点予防種		
9	アルゼンチンアリ <i>Linepithema humile</i>	(沖縄島那覇市) 令和4年10月に那覇港で2例目の確認あり。
産業管理外来種		
10	セイヨウミツバチ <i>Apis mellifera</i>	(沖縄島名護市) 養蜂の事例が増えたためか、野外でセイヨウミツバチのものと思われる巣を見かけた。生態系への影響がないのか気になっている。

(4) その他の外来種

県内各地において、重点対策種及び産業管理外来種以外の、動向が懸念される外来種 28 種類（動物 19 種、植物 9 種）について得られた情報をまとめた（表 4-1.3）。また、新規に確認された外来種として、沖縄島でホンコンシロアゴガエル（予防種）の侵入の報告があった^{文献3)}。

<引用文献>

文献3: 上村亮・皆藤琢磨・小野宏治・富永篤, 2022. ホンコンシロアゴガエル *Polypedates megacephalus* の沖縄県への侵入事例. Akamata 31: 36-41.

表 4-1.3 各地へのヒアリング等で得られたその他の外来種の情報

(哺乳類)

No.	種名	情報	対策外来種リスト の 카테고리
1	ノヤギ <i>Capra hircus</i>	(沖縄島やんばる地域) 宇佐浜海岸と高江で群れを確認した。 (座間味村) この数年、ヤギを無人島に放している人がいるという話を聞いたことがある。 (粟国島) 屋外でヤギが飼われているなど懸念があるが、実態把握はできていない。	対策種
2	カイウサギ <i>Oryctolagus cuniculus</i>	(沖縄島名護市) 名護市嘉津宇岳や名護岳等で、捨てられたウサギを目撃する機会がここ数年内に数回あった。 (石垣島) 令和2年12月に市街地内で飼い主不明のウサギ(複数個体)が逃げ出しているとの情報があったが、令和3年度に市民が捕獲し警察に引き渡したとの報道がある。高田林道でも複数の個体の目撃情報がある。 (竹富町嘉弥真島) 持ち込まれたカイウサギが野外で定着、繁殖している。	対策種
3	カビバラ <i>Hydrochoerus hydrochaeris</i>	(石垣島) 目撃例をここ数年間かなくなった。元々1頭だったので、死んでしまったと思われる。	-

(爬虫類・両生類)

No.	種名	情報	対策外来種リスト の 카테고리
1	ヤエヤマセマルハコガメ <i>Cuora flavomarginata evelynae</i>	(宮古島市) 宮古島全域に生息しているが、今年度下地島で目撃情報あり。令和2、3年度に生息状況調査、今年度は食性解析を実施。保護個体のうち6頭を鳥羽水族館、3頭をひみら水族館に譲渡。	対策種
2	ヤエヤマシシガメ <i>Mauremys mutica kami</i>	(宮古島) イタチわなの錯誤捕獲個体、ミヤコサワガニ生息地での捕獲個体を市で処分(令和3年度は124匹、4年度は49匹)	対策種
3	ハブ <i>Protobothrops flavoviridis</i>	(粟国島) 民間事業者を含めて捕獲を行っている。今年度は職員を2名配置し、トラップを130台設置している他、買い取りも行っており、刺し網も導入する。昨年度は59匹捕獲し、今年度は12/7までに114匹捕獲となっている(累計の捕獲数は204)。捕獲数は大幅に増加しているが、これは本格的に捕獲に入ったことも大きいと考えている。ハブによる人的被害はいまのところ生じていない。	-
4	シロアゴガエル <i>Polypedates leucomystax</i>	(座間味村) 令和2年度までは環境省業務での駆除を実施していたが、昨年度はなかった。地域住民が自主的に行う方向に移行するようだ。	対策種
5	ホンコンシロアゴガエル <i>Polypedates megacephalus</i>	(沖縄島) 令和4年2月27日に、台湾の基隆から那覇新港に到着したコンテナ内から計5個体が発見された。	予防種

(魚類)

No.	種名	情報	対策外来種リスト の 카테고리
1	マダラロリカリア <i>Pterygoplichthys disjunctivus</i>	(石垣島) 駆除が実施されたり止まったりするので、官民の交流を密にして防除を実施すべきだ。	対策種

(甲殻類)

No.	種名	情報	対策外来種リスト の 카테고리
1	アメリカザリガニ <i>Procambarus clarkii</i>	(石垣島) 昨年度の状況と変化はない。ザリガニの目撃情報があつた場所については、今後プレコの調査をする際に一緒に調査する予定。 (石垣島) 新聞記事になることもあるが、手放したい人が野外に逃がさないよう対策をするべきだ。	対策種

(昆虫類・その他節足動物)

No.	種名	情報	対策外来種リスト の 카테고리
1	ヒゲナガヘリカメムシ <i>Notobitus meleagris</i>	(沖縄島やんばる地域) ウフギー自然館(国頭村奥間)で多数確認(令和4年11月1日)。	-
2	クロスズメバチ <i>Vespula flaviceps flaviceps</i>	(沖縄島) 令和3年以降、名護市や本部町で複数個体が発見されている。	-
3	ソテツシロカイガラムシ(仮称) <i>Aulacaspis yasumatsui</i>	(県外) 奄美大島に侵入してソテツに被害を与えている。*	-
4	ラデンキンカメムシ <i>Scutellera amethystina</i>	(石垣島) 名蔵で目撃した。沖縄・奄美では定着しているようだが、石垣ではまだ見られない。ただしごく稀にいるようだ。 (西表島) 令和3年5月以降、島内各地で確認。	-
5	ヤエヤママドボタル(オオシママドボタル) <i>Pyrocoelia atripennis</i>	(沖縄島) 令和4年11月、南城市大里字大里でオスの飛翔個体を確認した。大里で見かけたのは初めてだ。オキナワマドボタルとの競合や、陸貝への捕食圧が気になる。	-
6	タイワンゴマダラカミキリ <i>Anoplophora macularia</i>	(沖縄島) 今帰仁、名護あたりまで分布を広げている。今後、北部の柑橘園に侵入すると、ミカン類に大きな被害を与える可能性がある。	-
7	ゴマダラカミキリ類 <i>Anoplophora</i> sp.	(北大東島) 5月頃に、ゴマダラカミキリ**がたくさんいるという話があつた。柑橘系の樹木にいつもより多く発生していたようだ。	-
8	ルリモンジャノメ*** <i>Elymnias hypermnestra hainana</i>	(西表島) 令和3年5月に西表島船浮ではじめて確認。その後西表島各地と鳩間島で確認している。ヤシを食草とするため、ヤエヤマヤシなど貴重なヤシが食べられてしまう可能性がある。	-
9	ミナミヤスデ <i>Trigoniulus corallinus</i>	(渡嘉敷島) 令和4年7月の調査の際に発見。島北西部(大谷林道)のおよそ1.3kmの範囲内にのべ8個体が見られた。 (北大東島) 令和3年に住宅地から離れた雑種地、資材置き場で発見があつた。令和4年9月頃、集合住宅で大量発生していると連絡があり、住宅の塀や芝生周りに殺虫剤を2回散布した。その後は、村民からの問い合わせもない。今のところ把握しているのは2箇所。	-

*: 令和5年2月9日に県内(国頭村)でも発見され、3月9日までに43本のソテツで被害が確認されている

** : 北大東島には、数年前にタイワンゴマダラカミキリが侵入している

***: 外来種ではなく迷蝶とされることが多い

(植物)

No.	種名	情報	対策外来種リスト の 카테고리
1	ナガエツルノゲイトウ <i>Alternanthera philoxeroides</i>	(沖縄島やんばる地域) 今年度、国頭村奥から大宜味村真喜屋までの13か所で新たに確認。 (石垣島) 平成30年12月に県の調査で、浦田原排水路と嵩田排水路の沈砂地で確認。令和3年度に緊急的に環境省が名蔵アンバル鳥獣保護区内の防除を実施。浦田原排水路の上流部では約100mの区間で繁茂が確認されている。令和4年度のモニタリングでは前年度に除去した箇所では生育は確認されていないが、上流から切れ端が島状に流れてきており、分布拡大の恐れがある。 (石垣島) 令和2年度に名蔵地区の水路一帯で確認。同年に環境省と合同で駆除作業実施(1t未満程度)。	対策種
2	ホテイアオイ <i>Eichhornia crassipes</i>	(宮古島) 令和2年度より池間湿原と添道サガリバナ群生地において防除を実施。	対策種
3	モミジバヒルガオ <i>Ipomoea cairica</i>	(沖縄島やんばる地域) 世界自然遺産核心地域内で分布が拡大している。 (東村) 分布が拡大していて、今後対策が必要。 (西表島) 令和4年11月~12月に確認。祖納ほか西表島内各地で繁茂し始めている。	対策種
4	リュウキュウハギ <i>Lespedeza thunbergii formosa</i>	(沖縄島やんばる地域) 新たに確認。	-
5	メリケントキンソウ <i>Soliva sessilis</i>	(沖縄島やんばる地域) 新たに確認。	-
6	ヒメイワダレソウ <i>Phyla canescens</i>	(沖縄島やんばる地域) 新たに確認。	-
7	シマムラサキツユクサ (ゼブリナ) <i>Tradescantia zebrina</i>	(沖縄島やんばる地域) 新たに確認。	-
8	コケセンボンギクモドキ <i>Erigeron bellooides</i>	(沖縄島やんばる地域) 新たに確認。	-
9	ベゴニア <i>Begonia sp.</i>	(沖縄島やんばる地域) 国頭村与那で2020年以前から確認。	-

4-2. 外来種リストの更新・見直し

沖縄県の外来種リストは、毎年行う更新と、3年に一度行う見直しによって改訂される（図4-2.1）。今年度は、本リストの更新のため、沖縄県内各地における外来種の侵入状況についての情報収集結果をもとに、必要に応じて専門家ヒアリング等を行い、外来種リストの更新が必要な種を絞り込んだ。

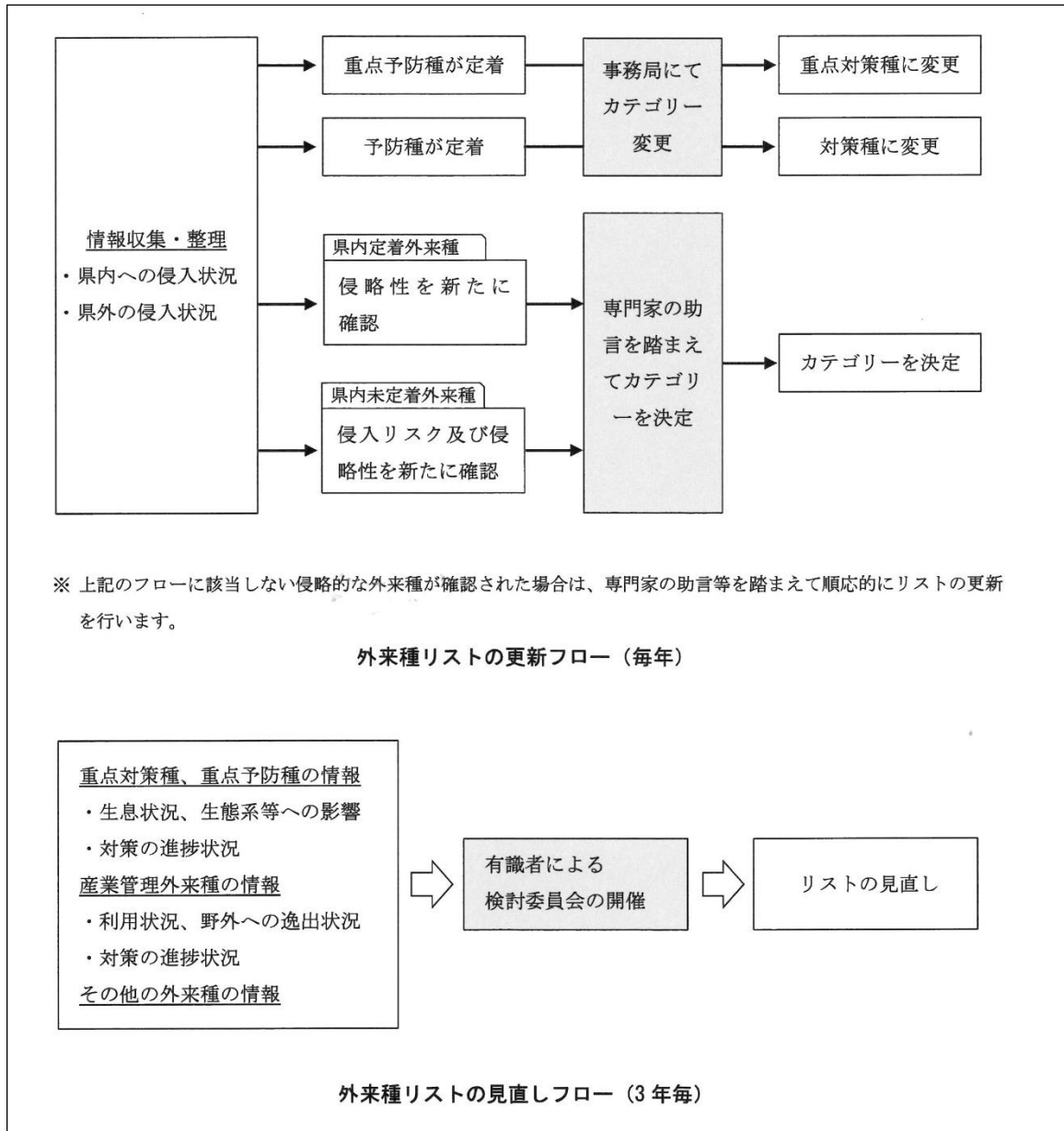


図4-2.1 外来種リストの更新・見直しフロー（行動計画）

(1) 重点対策種及び重点予防種の更新

a) 更新の経緯

令和3年度から、ノヤギ及びヤエヤママドボタルについては、生態系かく乱や希少生物の捕食等の影響が大きいことから、リストへの新規掲載及びカテゴリーの変更が検討されてきた。令和4年度第1回外来種検討委員会において、緊急性を考慮してこの2種を「重点対策種」とすることが提案され、承認された。

また、重点予防種に指定されているアライグマは、令和4年度外来種対策事業（哺乳類対策）において広域的な調査等を実施したが、確認がなかったため、令和4年度哺乳類作業部会で議論し「予防種」とすることが提案され、令和4年度第2回外来種検討委員会において承認された。

b) 防除計画について

防除計画は各作業部会で議論され、令和4年度第2回外来種検討委員会で承認された。防除計画の構成や記載内容を示した（表4-2.1）。各防除計画は、4-3. に示す。

表 4-2.1 防除計画の構成及び主な記載内容

1. 背景と目的	発見の経緯や指定の目的などを記載
2. 概要	和名や学名、分布情報、形態・生態情報を記載
3. 指定の状況	特定外来生物、生態系被害防止外来種リスト等への記載状況
4. 生態系等への影響	主に生態系への影響を想定し、影響内容を記載
5. 目標	行動計画の防除目標カテゴリーから選択
6. 対策の方針	目標達成のために必要となる対策を記載
7. 実施体制	目標達成のために必要となる実施体制を記載
8. 防除方法	他事例を参考に記載
9. 防除計画の見直し	他種同様に、3年目に中間評価、5年目に見直しを想定

(2) 令和3年度の見直しについて

令和3年度の本リスト見直しについては、継続検討となっていた。それぞれの提案について事務局で検討した結果、以下に示すカテゴリで取り扱うこととした(表4-2.2)。

表4-2.2 令和3年度の見直しの結果

No.	分類群	種名・種類名	現行の カテゴリ	R3で専門家が推薦した カテゴリ	今年度確定したカテゴリ
1	哺乳類	ノヤギ	対策種	重点対策種	重点対策種
2	両生類	ウシガエル	対策種	重点対策種	対策種
3	魚類	ウォーキングキャットフィッシュ	対策種	重点対策種	対策種
4	甲殻類	アメリカザリガニ	対策種*	重点対策種	対策種
5	貝類	アフリカマイマイ	対策種	重点対策種	対策種
6	貝類	スクミリンゴガイ	対策種	重点対策種	対策種
7	貝類	ラブラタリンゴガイ	対策種	重点対策種	対策種
8	昆虫類	ヤエヤママドボタル	-	重点対策種	重点対策種
9	植物	ナガエツルノゲイトウ	対策種	重点対策種	対策種
10	植物	ヒマワリカッコウ(ブラクセリス・クレマチデアとして提案)	-	重点対策種	対策種
11	爬虫類	ブラウンアノール	予防種**	重点予防種	予防種
12	爬虫類	タテスジマブヤ	予防種	重点予防種	予防種
13	爬虫類	スインホーキノボリトカゲ	予防種	重点予防種	予防種
14	昆虫類	島嶼外のカプトムシ類	予防種(一部)	重点予防種	予防種
15	昆虫類	島嶼外のクワガタムシ類	予防種(一部)	重点予防種	予防種
16	貝類	コシタカオカモノアラガイ	対策種	-	-
17	貝類	オオオカチョウジガイ	-	対策種	対策種
18	貝類	コハクガイ	-	対策種	対策種
19	貝類	チャコウラナメクジ	-	対策種	対策種
20	貝類	ミヤコマイマイ	-	対策種	対策種
21	貝類	アシヒダナメクジ科	-	対策種	対策種
22	昆虫類	ツヤオオズアリ	-	対策種	対策種
23	昆虫類	タイワンゴマダラカミキリ	-	対策種	対策種
24	その他の 節足動物	ミナミヤスデ	-	対策種	対策種
25	植物	ベニツツバナ	-	対策種	対策種
26	哺乳類	"ミニブタ"	-	予防種	予防種
27	両生類	アカハライモリ	-	予防種	予防種
28	両生類	アジアウキガエル属	-	予防種	予防種
29	貝類	在来種(オキナワウスカワマイマイ・タママイマイ)を除くウ スカワマイマイ属	-	予防種	予防種
30	貝類	日本本土のカワニナ類	-	予防種	予防種
31	貝類	ムラサキガイ	対策種	予防種	対策種***
32	植物	ブリランタイシア属の一種	-	予防種	予防種

*：前回の更新では重点対策種への変更を保留

**：前回の更新では重点予防種への変更を保留

***：県内の定着状況について再確認が必要なため、変更を保留

(3) ヒアリングによるリストの更新

a) ヒアリング対象機関

外来種リストへの新規掲載やリスト掲載種のうちカテゴリー変更が必要なものについて、研究機関等に意見を求めた。

b) リスト更新の内容

ヒアリングの結果、リスト更新の対象となった種類の一覧を示した(表 4-2.3)。予防種であるアマゾンセイルフィンキャットフィッシュ(魚類)が県内に定着していることが判明したため、更新フローに従い、この種を対策種へと変更することとした(表 4-2.4)。

その他に、魚類1種と植物2種類について、新規掲載あるいは掲載分類群の変更についての提案をいただいた(表 4-2.3)。各種類の提案理由を以下に示す(表 4-2.5~7)。事務局で検討した結果、それぞれについて、提案どおりに新規掲載あるいは掲載分類群変更を行うこととした。

表 4-2.3 外来種リストの更新対象一覧

No.	分類群	種名・種類名	現行の カテゴリー	専門家が推薦した カテゴリー	更新後の カテゴリー
1	魚類	アマゾンセイルフィンキャットフィッシュ	予防種	-	対策種
2	魚類	コイ	-	対策種	対策種
3	植物	ヒメコガネヒルガオ	-	対策種	対策種
4	植物	モクマオウ類	トクサバモクマオウのみ対策種	対策種	対策種

表 4-2.4 アマゾンセイルフィンキャットフィッシュの 카테고리区分と変更理由

アマゾンセイルフィンキャットフィッシュ (<i>Pterygoplichthys pardalis</i>)		
カテゴリー	リストの更新後	現行
		防除対策外来種の「対策種」
背景・ 変更理由	<ul style="list-style-type: none"> アマゾン川原産のロリカリア科の淡水魚。 分類学的知見の進展に伴うカテゴリー変更。県内に生息し、従来は対策種のマダラロリカリア (<i>P. disjunctivus</i>) とされていたもののうち、一部は本種であることが判明した。 	

表 4-2.5 コイのカテゴリー区分と提案理由

コイ (<i>Cyprinus carpio</i>)		
カテゴリー	リストの更新後	現行
		防除対策外来種の「対策種」
背景・ 提案理由	<ul style="list-style-type: none"> 原産地不明のコイ科の大型の淡水性魚類で、県内での移入は19世紀以降とされる。 沖縄島、久米島、粟国島、伊平屋島、石垣島、西表島、与那国島、南大東島等に生息する。 環境の改変や捕食により、在来種に悪影響を与える。 大型魚であり、沖縄には在来のコイ科魚類はフナしかいないため、環境へのインパクトが大きい。 本種が環境へ悪影響を与えるという認識が広まっていないため、河川や池等への放流が行われている。 	

表 4-2.6 ヒメコガネヒルガオのカテゴリー区分と提案理由

ヒメコガネヒルガオ (<i>Merremia gemella</i>)		
カテゴリー	リストの更新後	現行
		防除対策外来種の「対策種」
背景・ 提案理由	<ul style="list-style-type: none"> ヒルガオ科の多年生つる植物で、台湾から南アジアにかけて分布する。 南大東島では湿地周辺で繁茂が憂慮される段階になっている。 石垣島、西表島でも限定的ではあるが生育している。 	

表 4-2.7 モクマオウ類のカテゴリー区分と提案理由

モクマオウ類 (<i>Causarina</i> spp.)		
カテゴリー	リストの更新後	現行
		防除対策外来種の「対策種」
背景・ 提案理由	<ul style="list-style-type: none"> オーストラリア原産のモクマオウ科の高木。 分類学的知見の進展に伴う、近縁種を含めた属レベルでの掲載とする変更。県内では、トクサバモクマオウに加え、カニンガムモクマオウ <i>C. cunninghamiana</i> 及びこの種とトクサバモクマオウとの雑種も多い。 	

c) リスト掲載種等についての提案

現在は防除対象地域には入っていない宮古島でもイノシシの対策に取り組むべきとの意見があり、また、ベニツツバナは今後脅威となり得るため、対策をとる必要があるとの指摘があった（表 4-2.8）。

表 4-2.8 リスト掲載種等についての意見

No. 分類群	種名・種類名	現行 カテゴリー	提案	提案理由
1 哺乳類	ニホンイノシシ・イノブタ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	重点対策種	宮古島での対策実施	（現行の防除計画対象地域外である）宮古島のイノシシは、今本格的に根絶を目指して対策をとらないと、手遅れになるおそれがある。
2 植物	ベニツツバナ <i>Odontonema strictum</i>	- (昨年度に 対策種に推薦)	対策の実施	今後脅威になり得る。

(4) 見直しと更新後の外来種リスト

見直しと更新の結果、外来種リストにおける重点対策種は現行の 15 種類から 17 種類、対策種は 144 種類から 156 種類、重点予防種は 6 種類から 5 種類、予防種は 207 種類から 212 種類となり、リスト掲載種の総数は、375 種類から 392 種類となった（表 4-2.9）。

表 4-2.9 外来種リスト見直し・更新前後の種類数一覧

分類群	防除対策外来種						定着予防外来種						産業管理外来種				
	重点対策種			対策種			重点予防種			予防種			現行	見直し・更新			
	現行	R3 見直し	R4 更新	見直し・更新後	現行	R3 見直し	R4 更新	見直し・更新後	現行	R3 見直し	R4 更新	見直し・更新後					
哺乳類	5	-	+1	6	5	-	-1	4	1	-	-	0	26	+1	28	0	-
鳥類	2	-	-	2	3	-	-	3	0	-	-	0	13	-	13	0	-
爬虫類	3	-	-	3	9	-	-	9	1	-	-	1	15	-	15	0	-
両生類	1	-	-	1	5	-	-	5	0	-	-	0	10	+2	12	0	-
魚類	0	-	-	0	18	-	+2	20	0	-	-	0	39	-	38	0	-
甲殻類	0	-	-	0	2	-	-	2	0	-	-	0	15	-	15	0	-
貝類	0	-	-	0	11	+4	-	15	0	-	-	0	15	+2	17	0	-
昆虫類	2	-	+1	3	4	+2	-	6	3	-	-	3	15	-	14	3	-
その他の節足動物	0	-	-	0	2	+1	-	3	1	-	-	1	6	-	6	0	-
その他の動物	0	-	-	0	4	-	-	4	0	-	-	0	2	-	2	0	-
植物	2	-	-	2	81	+2	+1	84	0	-	-	0	51	+1	52	0	-
合計 (375 → 392)	15	-	+2	17	144	+10	+2	155	6	-	-1	5	207	+6	212	3	-
				159 → 172				213 → 217									

※ 赤字は、今回の変更内容を示す。